校長通信 令和５年度２７号 令和５年１月１５日

和歌山市立河北中学校　校長　戸川定昭

≪３学期スタート≫

１月９日、３学期の始業式を体育館にて行いました。校歌斉唱の後、校長の講話をしました。講話では、能登半島地震の犠牲者、被害者の方々へのお悔やみ、お見舞いの話をしました。その後、３学期、３年生は新しい進路先に向けて、１，２年生は新しい学年に向けて、しっかりがんばるよう激励しました。

ところで、コロナが５月に第５類になってから、始業式、終業式を体育館で行うようになり、式の最初に校歌を歌っています。私が河北中学校に転任してきて、ほぼ４年ですが、式で校歌を歌うようになったので、最近、やっと歌詞を見ずに河北中学校の校歌を歌えるようになりました。私は、校歌というものが大好きで、自分の母校、幼稚園から大学まで、今でも歌詞を見ずにスラスラ歌えます。また、これまでの勤務した学校の校歌も、ほぼほぼ歌えます。

校歌は、その学校（幼稚園）の歴史や文化、地域の思いがその歌詞につまっていると思います。本校の生徒達も、いつまでも、河北中学校の校歌を覚えていてほしいと思っています。

≪医師が石川県輪島市での救護活動を報告≫

能登半島地震で、１月４日から８日まで能登半島に災害医療コーディネーターとして派遣された、日赤和歌山医療センターの医師が、１２日、現地での活動を報告したことがマスコミで報道されていました。

医師は「この惨状は、和歌山でも必ず起こると確信した。」と述べていました。和歌山県も能登半島同様、紀伊半島という半島に位置し、地形的にも似ているのでしょう。

今後、和歌山も避難所への段ボールベッド・マンホールトイレなどの確保や、その近隣での備蓄施設の整備などを更に進めるよう訴えっていました。また、個人でも持病がある人は、常用薬を１週間から１０日分確保しておくよう、呼びかけていました。

行政がすべきこと、個人で備えておくべきもの等あると思います。水の確保、食料の確保は、個人でもある程度できると思います。出来る備えはしておきましょう。

因みに、この報告をした医師は、私の小中学校時代の同級生です。現地で、全国から派遣された医療チームの指揮を執ったと言っていました。同級生の奮闘に、たいへん頼もしく感じるとともに、自分も与えられた業務をしっかりせねばと刺激をうけた次第です。